報道関係者各位

2025年10月22日

2025年11月21日（金） 水戸市泉町に新たな文化施設
「テツ・アートプラザ」オープン
クヴェレ美術館は2026年2月14日（土）オープン決定

哲文化創造公益財団法人（理事長 福田三千男）は、水戸市泉町にホール、美術館、カフェから成る文化施設「テツ・アートプラザ」を2025年11月21日（金）にプレオープンいたします。

「テツ・アートプラザ」の構想は、明治42年（1909）に建設された、歴史的に貴重な洋風建築である旧川崎銀行を活かし、水戸に賑わいを創出したいという思いからスタートしました。新たな交流の場として生まれ変わった「クヴェレホール」の両脇には、美術館とカフェを新設し、気軽に芸術文化に触れることができるスペースとなりました。2026年2月14日（土）に開館する「クヴェレ美術館」では、福田三千男が収集した日本近現代の絵画と工芸作品、市内のコレクター故・吉田光男氏（吉田石油前顧問）より寄贈されたシルクロードの仏教美術や陶磁器を中心に展示をします。明るく開放的なカフェには「niko and ... COFFEE」（株式会社アダストリア）が県内初出店します。

皆様に「泉」のような憩いの場として活用していただくことを目指し、活動を行っていきます。

テツ・アートプラザ

クヴェレとは？

「クヴェレ（Quelle）」とは、ドイツ語で「泉」を意味します。テツ・アートプラザが建つ「泉町」にちなみ名付けました。湧き出る泉に人々が集い、交流が生まれる憩いの場となるようにとの願いを込めています。

※施設写真はすべて©MOON LIGHT小沼渉写真事務所

【哲文化創造公益財団法人について】

株式会社アンドエスティHD 代表取締役会長の福田三千男は、創業の地・水戸に美術を中心に誰もが気軽に芸術鑑賞や生活文化に触れて楽しめる「テツ・アートプラザ」を整備し、その管理運営を担う組織として、令和3年4月9日に哲文化創造一般財団法人を設立、令和7年3月24日に茨城県から公益財団法人として認定され、哲文化創造公益財団法人に変更しました。

テツ・アートプラザならびに哲文化創造公益財団法人は、昭和28年(1953)に「株式会社福田屋洋服店(現:株式会社アンドエスティHD)」を水戸市泉町に創業した福田三千男の父・福田哲三氏の「哲」から名付けられました。

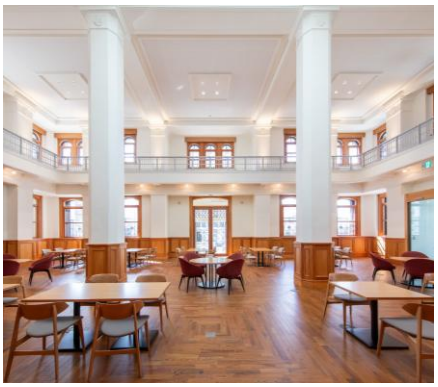
【施設概要】

敷地面積	2,405.15㎡	
建物構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上３階建て	
施設構成	クヴェレホール	旧川崎銀行棟改修
	クヴェレ美術館	増築
	カフェ	増築
延床面積	2,488.77㎡	
	（１階 1,430.96㎡ ２階 837.22㎡ ３階 220.59㎡）	
設計・監理	株式会社大宇根建築設計事務所	
施工	株式会社田村工務店	

＜建築について＞

このプロジェクトは、明治期の歴史的建造物である旧川崎銀行を中心に、美術館とカフェを新設し、3つの施設を屋内で繋げる大掛かりなものです。旧銀行棟の白い御影石とタイルの外壁に呼応するように、美術館とカフェの外壁には赤いレンガが採用されました。特注で焼かれた表情豊かなレンガ約7万本は、すべて手作業で積み上げられ、時間の経過と共に風合いを増すことで旧銀行棟と調和し、愛着の湧く親しみやすい外観を生み出します。内装には国産のケヤキやクリの無垢材が随所に用いられ、全体的に木のぬくもりが感じられる室内空間となりました。

美術館棟の中庭に面したハーフミラーガラスには旧銀行棟が映り込むことで新旧の建物が調和し、夜は一転して建物の明かりが街並みを温かく照らします。このように、新旧の建物が一体化した「テツ・アートプラザ」が誕生しました。



クヴェレホール

生まれ変わった水戸のシンボル
クヴェレホール

ホールには心地の良いテーブルや椅子を配置し、無料で一般開放いたします。歴史を感じる空間で、皆様に思い思いの時間を過ごしていただくことができます。また、地域の芸術文化活動などを行う方にも活用していただけるよう、貸し切り利用等も可能です（有料の場合有り）。演奏会などのイベントも開催し、この生まれ変わった歴史ある建造物を活かした活動を行っていきます。

クヴェレホール

＜建築の見どころ＞

旧銀行棟は、外観はほぼそのままに、国産のケヤキ材を贅沢に用い、屋内の壁面、床、天井、窓枠などを改装しました。当初のままのトップライトからは自然の柔らかな光が降り注ぎます。演奏会や講演会などのイベント開催に備え、防音効果を得るための二重窓構造にし、照明や空調等の整備を行いました。また、ホールの内壁の一部には、敷地内に残存していた明治期のレンガを再利用し、歴史を感じさせる空間となっています。

【旧川崎銀行の歴史】

明治42年(1909)に、水戸を発祥とした川崎銀行の水戸支店として建設されました。川崎銀行の2代目は建築道楽と言われたほどで、香取市、横浜市、千葉市などにも瀟洒(しょうしゃ)な洋風建築の旧川崎銀行が残っています。現存する銀行店舗としては、水戸の建物が最も古いようです。この建物は新家孝正(にいのみたかまさ)の設計によるものとされ、正面に車寄せがあり優雅な屋根を持つ本格的洋風建築は、当時、水戸の名物的存在だったようです。昭和20年(1945)8月の空襲で外壁と金庫を残して焼失しましたが、戦後、増築・改修されて、2019年2月まで三菱UFJ銀行水戸支店として使用されていました。

明治42年(1909)川崎銀行時代

昭和26年(1951)戦後の千代田銀行時代

茨城県内初出店！

カフェ「niko and … COFFEE」

茨城県に「niko and … COFFEE」が初出店します。大人気のニコパンやスムージーなどの定番商品に加えて、シーズナルメニューや、水戸TAP店限定のメニューも用意します。カフェの一部コーナーでは、「LAKOLE」の生活雑貨や食品などがお求めいただけます。

明るく開放的な店内には、幅広い世代の方々がくつろげる居心地のよい時間が流れます。美術館鑑賞後の休憩や、学校や仕事帰りにお気軽にお立ち寄りください。

ニコパン

スムージー

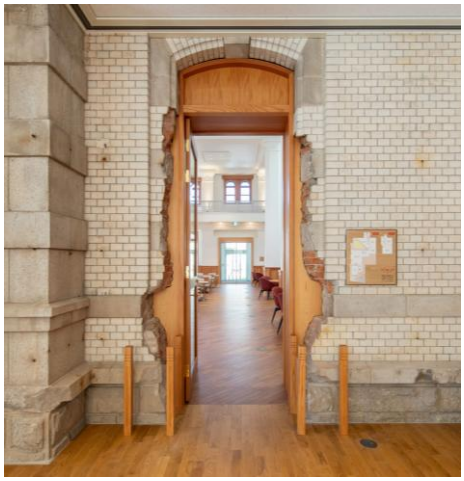
LAKOLE商品（イメージ）

LAKOLE商品（イメージ）

＜建築の見どころ＞

カフェ棟は、L字型にガラス窓が巡り、明るく開放的な空間となっています。ホールとカフェを繋ぐ開口部は、旧銀行棟の明治期のレンガ躯体をあえて露出させ、時代や歴史を感じていただけるようにしました。旧銀行棟の外壁をそのままカフェの内装に活かすなど、元の姿を可能な限り保全しています。

niko and … COFFEE



旧銀行棟の外壁とレンガ躯体

2026年2月14日 開館！

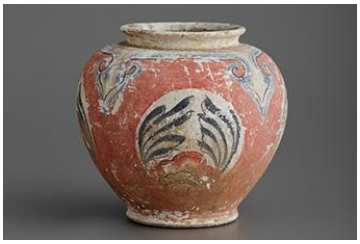
クヴェレ美術館

コレクションの中心は、哲文化創造公益財団法人の理事長・福田三千男が収集した日本近現代の絵画と工芸作品、吉田石油前顧問の故・吉田光男氏より寄贈されたシルクロードの仏教美術や陶磁器、故・瀬川竹生氏寄贈の伊万里染付大皿など約630点です。所蔵品を中心とした企画展を年3～4回開催し、水戸の街中で気軽に美術品に触れ、豊かな時間を過ごしていただくことができます。

【コレクションの内訳】
・近現代の日本画・近代洋画（横山大観、小川芋銭、藤田嗣治、中村彝など） 約270点
・シルクロードの仏教美術、陶磁器 約250点
・伊万里染付大皿 113点

【前期展示】横山大観≪放鶴≫（部分）1912～13年頃

開館記念展Ⅱにて展示予定 中村彝≪静物≫ 1917年


≪白釉加彩纏綿文壺≫唐時代

【展覧会スケジュール（予定）】
・2026/2/14～7/5 開館記念展Ⅰ Meet 美の交差点 近代日本画と東洋陶磁
・2026/7/18～2027/1/11 開館記念展Ⅱ Meet 美の交差点 日本近代洋画とシルクロードの精華（仮）
・2027/1/30～4/11 開館記念展Ⅲ Meet 美の交差点 棟方志功と清宮質文の版画展（仮）

＜建築の見どころ＞

1階と2階あわせて約400㎡の展示室を設けました。1階展示室には、吉田コレクションを中心とした工芸作品を展示します。吉田氏が日々の生活のなかでコレクションを鑑賞していたことにちなみ、左官仕上げの壁と木材、優しい光が降り注ぐ光天井や障子窓を組み合わせることで、作品を身近に楽しめる空間としました。2階展示室には、主に絵画作品や近現代の工芸作品を展示します。展示室1には、収納式の展示パネルや奥行きを可変できる壁面ケースを備え、様々な作品に対応できる本格的な展示空間となっています。

1階展示室

2階展示室

ごあいさつ

この度、水戸市泉町にクヴェレ美術館、クヴェレホールとカフェによって構成されるテツ・アートプラザを開館いたします。

元々この地には旧川崎銀行水戸支店があり、戦争にも耐えた明治時代の建物がついこの間まで三菱UFJ銀行として使われておりました。近所で生まれ育った私が幼い頃から遊び場として親しんできた歴史的にも貴重な建物を今後もなくてはならぬものとして活用すべく、老若男女問わず地域の皆様が自由に集えるようクヴェレホールに改修し、西側に美術館、東側にカフェを新設しました。

美術館では私の収集した茨城や水戸にゆかりのある横山大観、中村彝、板谷波山といった作家の絵画や工芸作品、そして株式会社吉田石油の故・吉田光男氏よりご寄贈いただいたシルクロードにちなむ工芸や日本の古陶磁を展示してまいります。

近隣には水戸芸術館や市民会館、茨城県近代美術館といった文化施設をはじめ、偕楽園や弘道館といった歴史を感じることのできる史跡、そして都市にありながら豊かな自然を感じることができる広々とした千波公園がございます。当館の芸術文化活動とホール、カフェの運営を通じて歴史・文化・自然に恵まれたこの水戸の地をより一層盛り立て、街の賑わいに貢献したいと願ってやみません。

哲文化創造公益財団法人
理事長　福田 三千男

喜びの泉　～クヴェレ～

水戸芸術館タワーのほど近い泉町に、誰もが集える「クヴェレホール」と「カフェ」がクヴェレ美術館に先駆けてプレオープンいたします。クヴェレはドイツ語で「泉」を意味します。明治42年に竣工した旧川崎銀行の内部を改修し、外観は敢えてそのまま残しました。改修工事で取り外された塀のレンガも大切に回収・再利用しています。ホールは今後も水戸の歴史遺産として、永く在り続けます。

ホールの両翼には、来訪者がくつろぐためのカフェと、身近に美術を親しめる来春開館のクヴェレ美術館を設けました。創設者の福田三千男氏、そして故・吉田光男氏が心血を注いだ遺愛の作品群は、絵画・工芸彫刻などを合わせて約630点超の非常に優れたコレクションです。これらを今後、4つの展示室で順次公開してまいります。

テツ・アートプラザで過ごす楽しいひとときは、想像力を豊かにし、鑑賞の深い歓びをもたらすものと確信しています。皆様のご来場をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

テツ・アートプラザ
クヴェレ美術館
館長　志賀 秀孝

【ロゴマークについて】

ふくろうの顔とテツ・アートプラザの頭文字の「T」を融合させたマーク。明朝体のセリフのようなディテールを持たせることで、 シンプルで親しみやすい造形の中に、歴史や伝統が同居する表現としています。

デザイン：廣村正彰

＊セリフ…文字の端につけられる装飾のこと

ふくろうのモチーフは、クヴェレ美術館の収蔵品のひとつ、ヴィクトリア朝時代のイギリスで活動したマーティン兄弟による陶芸作品≪ふくろう≫を起源としています。美術館のシンボルとして、いつも皆様をお迎えします。

【常設展示】マーティン兄弟≪ふくろう≫1893年

【各施設利用案内】

◇ クヴェレホール

開館時間　10:30～18:00　※11月21日(金)のみ、12時から一般公開
休 館 日　月曜日及び第2火曜日（祝日の場合は翌日休館）、12月29日～1月3日
臨時休館　2026年1月19日(月)～24日(土)
入 館 料　無料　※イベント開催時などご利用できない場合があります。

◇ カフェ「niko and ... COFFEE」

営業時間　平日 10:00～20:00（L.O. 19:30）　※11月21日(金)のみ、12時から一般公開
　　土日・祝　11:00～18:00（L.O. 17:30）
定 休 日　12月29日～1月3日
臨時店休　2026年1月19日(月)～24日(土)

◇ クヴェレ美術館　2026年2月14日(土)開館

開館時間　10:30～17:30 ※毎週金曜日は19:00まで開館。最終入館は閉館30分前。
休 館 日　月曜日及び第２火曜日（祝日の場合は翌日休館）、12月29日～1月3日、展示替え期間

【所在地】
茨城県水戸市泉町3-2-3

【アクセス】
公共交通機関：JR東京駅(品川駅始発）から常磐線特急で約75分、水戸駅下車、北口バスターミナル4-7番のりばからバスで「泉町三丁目」下車、横断歩道を渡ってすぐ。
乗用車：常磐自動車水戸ICから約20分。※提携駐車場あり

【問い合わせ先】
哲文化創造公益財団法人　テツ・アートプラザ　茨城県水戸市泉町3-2-3
Tel:029-224-7123　mail:pr@tetsubunkasozo.or.jp　URL:https://tap-mito.jp

クヴェレ美術館 開館記念展Ⅰ
Meet 美の交差点 近代日本画と東洋陶磁
2026年2月14日(土)～7月5日(日)

偕楽園の梅がほころび始める春、水戸の泉町にクヴェレ美術館が誕生します。コレクションの中心は、福田三千男(当財団理事長)が収集した日本近現代の絵画と工芸作品、市内のコレクター故・吉田光男氏より寄贈されたシルクロードにまつわる作品や陶磁器約630点です。このたび開館を記念して、当館を代表するコレクションから、3期にわたり幕開けにふさわしい選りすぐりの名品たちをお披露目します。

第1期となる本展では、近代日本画と東洋陶磁を中心とした作品を展示します。茨城県ゆかりの横山大観や小川芋銭のほか、上村松園、竹内栖鳳など巨匠たちの作品と、インド、地中海、中国、朝鮮半島そして日本と幅広い地域から集められた工芸作品が皆様をお出迎えします。古今東西の美と人々がであい、交差し、新たな歴史がこの場で紡がれていきます。

※絵画作品は前期（～4/22）と後期（4/28～）ですべて展示替えします。(前期、後期で各25点展示。工芸作品は通期展示で約70点展示予定)
※前期・後期に展示する作品は変更となる可能性があります。
※作品はすべてクヴェレ美術館蔵

【見どころ１】 茨城ゆかりの作家たちの作品を公開！

横山大観、小川芋銭、板谷波山など茨城を代表する作家たちの作品が並びます

【見どころ２】 近代日本画を代表する作家たちの競演

上村松園、速水御舟、竹内栖鳳など珠玉の日本絵画を公開します

【見どころ３】 珠玉の東洋陶磁コレクション、初公開！

吉田光男氏が残されたコレクションにまつわるエッセイを紹介しながら、
珠玉の個人コレクションをご覧いただきます

【見どころ１】　茨城ゆかりの作家たちの作品を公開！

水戸市を代表する日本画家、横山大観をはじめとした茨城県にゆかりのある作家の作品を公開します。菱田春草、下村観山、木村武山は、横山大観と共に岡倉天心に従い、北茨城市にある五浦の地で研鑽を積みました。また、牛久出身の小川芋銭は、茨城県内に伝わる河童や妖怪などの伝承を元に、多くの作品を残しました。

【後期展示】横山大観≪白牡丹≫大正14年（1925）

【前期展示】小川芋銭≪河伯安住所≫昭和4年(1929)

下館（現：筑西市）出身の板谷波山も茨城が誇る近代陶芸家です。光を包み込むような淡い色彩が特徴の「葆光彩磁（ほこうさいじ）」と呼ばれる技法を用い、陶芸家として初の文化勲章を受章しました。水戸市出身の彫金家で、帝室技芸員として活躍した海野勝珉（しょうみん）の作品も併せて紹介します。

【前期展示】板谷波山≪葆光彩磁延壽紋様香爐≫大正後期

開館記念にふさわしく、縁起の良い鶴に吉祥文様の松が描かれた、豪華な金屏風の横山大観≪放鶴≫をはじめとする茨城ゆかりの作家たちの華々しい作品の数々をご覧ください。

【前期展示】横山大観≪放鶴≫大正1～2年頃（c.1912-13）

【見どころ２】　近代日本画を代表する作家たちの競演

クヴェレ美術館の近代日本画のコレクションを彩る選りすぐりの名品をご紹介します。速水御舟、那波多目功一など、大観らが所属した日本美術院の作家の作品や、大観と同時代に活躍した竹内栖鳳をはじめとする京都画壇の作家たち。加えて、美人画の巨匠である上村松園・鏑木清方の眉目麗しい美人画作品を公開します。

【後期展示】
速水御舟≪芙蓉風花≫
昭和9年（1934）

速水御舟はその時代ごとに特徴的な様式を持つ画家で、細密画と呼ばれる写実的な表現が特に有名ですが、それらの時期を経たうえで極められた、様々な表現をもとに描かれた最晩年の代表作≪芙蓉風花≫を展示します。

【後期展示】竹内栖鳳≪慈母≫昭和16年（1941）

竹内栖鳳もまた、写生に重きを置いていた画家であり、その観察力とそれを表現する確かな実力で描かれた作品は、見るものを引き付ける魅力があります。

【後期展示】上村松園≪長夜≫明治40年頃（c.1907）

上村松園≪長夜≫は、福田三千男がコレクションを本格的に収集するきっかけとなった一作で、描かれている着物や、和綴じ本の装幀に金や銀があしらわれた豪華な作品です。
西の松園、東の清方と称されたように、鏑木清方の美人画との競演もお楽しみください。

【前期展示】上村松園≪雪≫昭和17年頃(c.1942)

【見どころ３】　珠玉の東洋陶磁コレクション、初公開！

故・吉田光男氏から寄贈された工芸作品の多くは、その1点1点が味わい深く、琴線に触れた作品を収集した珠玉の個人コレクションです。コレクションの特徴はシルクロードにちなむ東洋美術を中心としている点にあります。そのなかでも開館記念展Ⅰでは、インドからはじまり日本の古陶磁に至る幅広いコレクションの流れをご覧いただきます。また、吉田氏は自身で集めた収集品に関して数編のエッセイを残されています。展示では、それらのエッセイを交えながら、吉田氏の作品に対する思いもご紹介します。

シルクロードといえば、西域出土のものが主でなくてはならない。（中略）…あちこち手を出した結果、インド、地中海、ペルシア・ガラスなどからはじまって、中国の古いもの、とくに西域に寄ったもの、西域風ソグド人の登場する俑、土器などが多かった。
吉田光男『おとな日和』「コレクション」より

【通期展示】≪白瑠璃碗≫ ササン朝ペルシア

【通期展示】≪塑造加彩武人≫唐時代

コレクションの特徴１　小さきものへのまなざし

吉田コレクションの特徴のひとつが、小ぶりな愛らしいサイズの作品が多いことにあります。そのため展示室にもそれらの作品を並べるための展示ケースを設けました。

サイズこそ小さいもののいずれも存在感とメリハリのある一流の作品です。今回は磁州窯と青磁や緑釉といった青と緑色の色彩が印象的な作品を中心にご紹介します。

【通期展示】≪青磁天鶏壺≫西晋時代

コレクションの特徴2　朝鮮半島の美術

朝鮮といえば白磁や高麗青磁の印象が強いですが、吉田氏は百済や新羅の仏教遺跡にまつわる品々にも着目して収集しています。それもひとえにシルクロードにおける大陸の最東端が朝鮮半島に位置していたからでしょう。精巧な金属製の風鐸（ふうたく）や華やかな装飾の宝相華文（ほうそうげもん）の塼（せん）などは大陸での東西交流の軌跡がしのばれます。点数は多くありませんが、シルクロードという視点から見ると奥深いコレクションとなっています。

【通期展示】≪宝相華文塼≫統一新羅時代

【通期展示】≪金銅風鐸≫伝高麗時代

コレクションの特徴3　日本の古陶磁

吉田コレクションの古陶磁は瀬戸、渥美、丹波、信楽を中心に優れた作品が多く含まれています。中でも「不忍」の銘をもつ信楽焼の大甕は一説によると戦時中の所蔵者が空襲から避けるために上野・不忍池に隠したという、大切に守り継がれてきた傑作です。

コレクションに含まれる信楽や渥美といった産地で焼かれた古陶磁は1970年代ごろから主に花を、それも野の花を活ける器として集めたようです。当時のオイルショックによる殺伐とした世相から逃れるように郊外の野辺で摘んだ花を活けることを楽しみにしながら一つ一つ収集された壺はいずれも土そのものの力強さと幽玄な美しさに満ちています。

【通期展示】≪信楽大甕　銘「不忍」≫
鎌倉時代

【通期展示】≪古瀬戸灰釉草葉文広口壺≫
鎌倉時代

【開催概要】
展覧会名：クヴェレ美術館 開館記念展Ⅰ Meet 美の交差点　近代日本画と東洋陶磁
※絵画作品は前期（～4/22）と後期（4/28～）ですべて展示替えします。
会　　期：2026年2月14日(土)～7月5日(日)
休 館 日：月曜日(ただし2/23、5/4は開館)、毎月第2火曜日、2/24、4/23～4/27、5/7
入 館 料：一般・大学生700円、高校生以下は無料。
所 在 地：茨城県水戸市泉町3-2-3
開館時間：10:30～17:30(毎週金曜日は夜間開館19:00まで）※いずれも最終入館は閉館30分前まで。
主　　催：哲文化創造公益財団法人
後　　援：水戸市、水戸市教育委員会

【オープニング記念イベント】
詳細が決まり次第、お知らせします。

【アクセス】
公共交通機関：JR東京駅(品川駅始発）から常磐線特急で約75分、水戸駅下車、北口バスターミナル4-7番のりばからバスで「泉町三丁目」下車、横断歩道を渡ってすぐ。
乗用車：常磐自動車水戸ICから約20分。※提携駐車場あり

【問い合わせ先】
哲文化創造公益財団法人　テツ・アートプラザ　茨城県水戸市泉町3-2-3
Tel:029-224-7123　mail:pr@tetsubunkasozo.or.jp　URL:https://tap-mito.jp

テツ・アートプラザ広報用画像

・広報用画像のダウンロードは、お手数をおかけいたしますが、外部サイト「ART PR」に会員登録のうえ行ってください。
URL：https://www.artpr.jp/tap-mito/tetsu_artplaza

＜注意事項＞
・基本情報と作品画像使用の確認のため、必ず本掲載前に校正を広報担当者宛にお送りください。
・事前に校正をお送りいただくのが難しい場合は、媒体名と販売日（掲載日）を記載の上、メールにてご相談ください。
・広報用画像の使用目的は当施設の紹介に限ります。画像の二次利用はできません。
・広報用画像の第三者への貸与若しくは譲渡はしないでください。
・広報用画像をインターネット上に流通させるなどして、不特定多数の人物が画像資料を利用できる状態に置かないでください。
・掲載及び放映後、画像が不要になった時点でデータは削除してください。
・原則として部分利用（トリミング）は行わないでください。
・web掲載の場合、画像にはコピーガードをおかけください。コピーガード不可の場合はご相談ください。
・掲載及び放映する際は、以下の表を参照し、クレジットの記載をお願いいたします。
※©MOON LIGHT小沼渉写真事務所の写真を複数枚掲載及び放映する場合は、掲載ページのどこかに明記されていれば、写真毎の記載は不要です。例）施設写真はすべて©MOON LIGHT小沼渉写真事務所
・本公開後は公開URLをご連絡ください。また、掲載紙、同録DVD等は当館まで1部ご恵贈願います。

 ①テツ・アートプラザ ©MOON LIGHT小沼渉写真事務所	 ②クヴェレホール ©MOON LIGHT小沼渉写真事務所	 ③クヴェレホール ©MOON LIGHT小沼渉写真事務所	 ④ニコパン
 ⑤スムージー	 ⑥LAKOLE商品（イメージ）	 ⑦LAKOLE商品（イメージ）	 ⑧niko and … COFFEE ©MOON LIGHT小沼渉写真事務所
 ⑨niko and … COFFEE ©MOON LIGHT小沼渉写真事務所	 ⑩1階展示室 ©MOON LIGHT小沼渉写真事務所	 ⑪2階展示室 ©MOON LIGHT小沼渉写真事務所	 ⑫クヴェレ美術館 ©MOON LIGHT小沼渉写真事務所

クヴェレ美術館 開館記念展Ⅰ Meet 美の交差点 近代日本画と東洋陶磁 広報用画像

・広報用画像のダウンロードは、お手数をおかけいたしますが、外部サイト「ART PR」に会員登録のうえ行ってください。
URL：https://www.artpr.jp/quelle-museum-of-art/quelle-meet01

＜注意事項＞
・基本情報と作品画像使用の確認のため、必ず本掲載前に校正を広報担当者宛にお送りください。
・事前に校正をお送りいただくのが難しい場合は、媒体名と販売日（掲載日）を記載の上、メールにてご相談ください。
・広報用画像の使用目的は当施設の紹介に限ります。画像の二次利用はできません。
・広報用画像の第三者への貸与若しくは譲渡はしないでください。
・広報用画像をインターネット上に流通させるなどして、不特定多数の人物が画像資料を利用できる状態に置かないでください。
・掲載及び放映後、画像が不要になった時点でデータは削除してください。
・原則として部分利用（トリミング）は行わないでください。
・web掲載の場合、画像にはコピーガードをおかけください。コピーガード不可の場合はご相談ください。
・展覧会名、会期、会場名、作品名、所蔵先、クレジットを必ず掲載してください。
・本公開後は公開URLをご連絡ください。また、掲載紙、同録DVD等は当館まで1部ご恵贈願います。

<table>
<tr>
<td>

①クレジットなし</td>
<td>
②【後期展示】横山大観 ≪白牡丹≫ 大正14年（1925） クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
③【前期展示】小川芋銭 ≪河伯安住所≫ 昭和4年(1929) クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
④【前期展示】板谷波山 ≪葆光彩磁延壽紋様香爐≫ 大正後期 クヴェレ美術館蔵</td>
</tr>
<tr>
<td>
⑤【前期展示】横山大観 ≪放鶴≫ 大正1～2年頃(c.1912-13) クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑥【後期展示】速水御舟 ≪芙蓉風花≫ 昭和9年(1934) クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑦【後期展示】竹内栖鳳 ≪慈母≫ 昭和16年(1941) クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑧【後期展示】上村松園≪長夜≫明治40年頃(c.1907)クヴェレ美術館蔵</td>
</tr>
<tr>
<td>
⑨【前期展示】上村松園 ≪雪≫ 昭和17年頃(c.1942) クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑩【通期展示】≪白瑠璃碗≫ ササン朝ペルシア クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑪【通期展示】≪塑造加彩武人≫ 唐時代 クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑫【通期展示】≪青磁天鶏壺≫ 西晋時代 クヴェレ美術館蔵</td>
</tr>
<tr>
<td>
⑬【通期展示】≪宝相華文塼≫ 統一新羅時代 クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑭【通期展示】≪金銅風鐸≫ 伝高麗時代 クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑮【通期展示】≪信楽大甕 銘「不忍」≫ 鎌倉時代 クヴェレ美術館蔵</td>
<td>
⑯【通期展示】≪古瀬戸灰釉草葉文広口壺≫ 鎌倉時代 クヴェレ美術館蔵</td>
</tr>
</table>